

おわりに

◆ 内閣府から、アンケートが届きました。「女性の政治参画への障壁等に関する調査研究」というタイトルです。項目は、立候補のきっかけや選挙に至るまでの課題、家族や地域の支援、ハラスメント、旧姓の使用など、多岐に渡ります。

これは、「政治分野における男女共同参画推進法」が施行されて2年半あまり経つのに、目標の「女性3割」にほど遠い状況が続いている故の調査です。

今期の福井県議会は、男性議員に若手が増えました。「5G、不妊治療、子育て奮闘中のお父さん、子どもの遊び場、Mas、ポケモン活用、Google検索」と、若者視点の話題が広がり、良い刺激が生まれていると感じます。

議会は社会の在り様を話し合う場ですから、多方面からの意見を議論すべきで、議員構成は、老若男女バランス良くあるべきと考えます。でも現状は男女比がアンバランスで、特に、若い女性議員が増えてほしいと願うところです。

福井県議会議員の男女別年代構成

	男性	女性
80代	3	0
70代	3	1
60代	14	1
50代	6	0
40代	3	0
30代	3	0
20代	1	0
計	33	2

ちなみに私は、女性が政治の世界に入りにくい一番の理由は「選挙」で、中でも「他所から嫁いできた嫁」という「地元出身でない」という壁が高いと感じています。

選挙は、候補者本人の事を知っていたことが第一歩です。でも地元出身でない場合、「貴方は何処の生まれ？」という顔をされがちです。選挙そのものもそうですし、団体推薦といった「支援の得やすさ」にしてもそうです。

例えば、もし私が生まれ育った町で選挙に出ようとするならば、

(両親・祖父母すべて教員でしたので)

「ああ、中西先生の娘さんね。」

「なんや、藤田先生のお孫さんか。」

(中西Ⅱ私の旧姓、藤田Ⅱ祖父母の名字)などと、話はスムーズに進むでしょう。

嫁いで来てからの時間の方がはるかに長いとしても、その人が「どういう血筋でどんな風に育ったのか」ということで、その『人となり』を判断するという点、地方ほど強い気がします。さらに、同級生もななく、「地域の声の代弁者」とは見なされにくいのではないのでしょうか。

無論、男性でも他の地の出身は不利とは思いますが、女性は他の地から嫁いできた率が高くなるに高い……。

実際、数少ない女性議員の中の、他の地域の出身者はさらに少ないです。

細川かをり県政報告

第58号

新年おめでとうございます。

今年は「丑(うし)年」、「我慢(耐える)」や

「発展の前振れ(芽が出る)」を表す年だそうです。

今日は、「新型コロナ禍に耐えて、そして突破する」

ことが社会の目標ですが、そのために、各々が「結果に

つながる道をコツコツ作っていく」ことが求められている

のかもしれない。地域にとっても皆様方にとっても、安心安全で

豊かな生活環境を再構築する「基礎固め」の歳となりますよう、

心よりご祈念申し上げます。



福井の古代史

「これでいいのか福井県……実はすごい県なのに、マイナーなワケ」という本に、「古代の越前・若狭は『日本』の中心地で、栄光に満ちていた」、「日本海側は、古代、東アジア向けの海外交易の中心。まぎれなく大陸の玄関口だった。」と書かれています。だからこそ、継体天皇が現れ、その血脈が皇統を紡いでいくわけだとも……。

実際、三国の遺跡では竪穴住居や勾玉・管玉・銅鐸・その鋳型が出土、福井市には四隅突出型」という特殊な形をした墳丘墓があり、鉄剣や碧玉やガラスの管玉・勾玉が出土しています。

福井の古代はとても魅力的です！

【細】県民の皆さんが「古代の越前・若狭」を誇りに思えるよう、福井の古代史をしっかりと調査してまとめ、発信し、福井の魅力を伝えるツールのひとつとして位置付けるべきではないか！？

【教育長】福井は、日本海を通じて人、物、文化の交流の拠点だった。今後、福井の古代の魅力について、県のホームページに分かりやすく掲載し、市町にも広く発信していくよう働きかけてまいる。

……と、ここまで書いたところで、夫に読んで感想を求めたところ、

「要は、地縁血縁が弱いってことが言いたいんやろ？そやけど、タベの『雑用割り』(↑地区総会)に女性は何人来てたと思う？……ゼロやぞ。」

と、そもその根つこの薄さも指摘されました。家長制度の影響の残りとか、女性の家事分担の多さとか……はい、これは男女で話し合うべき課題です。結びつくと思うからです。

そのために、もっと、がんばります。

コロナウイルスは、低温と乾燥で、生存時間がぐっと長くなります。(夏の二〇倍にも……)十分お気を付けください！

また、15分あれば感染してしまうそうで、隙間を常に開けておく効果が高いとか……

県政報告

★ ラジオ「丹南FM79.1」
「県議会 夢 通信」
1月16日(土) 午後4時～
(再) 17日(日) 午前10時～

細川かをり県政報告 R3.1
発行：福井県議会議員 細川かをり
事務所：越前市村国1丁目2-11
TEL・FAX 42-5888

邪馬台国 越前説



邪馬台国は「古代の福井Ⅱ越の国」で、「丸山古墳が卑弥呼の墓かもしれない」

と、発掘調査の陳情書が提出されています。初めは「突飛なことを」と思いましたが、きちんとした根拠があるので興味を惹かれ、質問しました。

①『国の基は農業なり』と云うが、その『農業基盤』について、全国の当時の状況を検証すると、豊かな農作物を得られていた福井平野こそが、邪馬台国の条件に当てはまる。

②卑弥呼が魏へ送った貢物に、翡翠があつたが、当時の日本の翡翠産地は越国内。またその加工地が「三国の下屋敷遺跡」、「敦賀の吉河遺跡」。さらに鉄器出土数日本一の「林・藤島遺跡」で、加工鉄器が多数発見されている。(この時代、近畿地方ではまだ鉄器の出土は少なく、越前が当時最先端加工技術を要していたわけです)

【細】もしその丸山古墳の発掘調査で何かがひも解かれる可能性があるなら、取り組むべきだ。

【教】調査実施には、まず地権者(福井市)の同意を得たうえで、文化財保護法に基づき、市を通じて県に届け出を行う必要がある。届けを待って、調査計画や調査体制の確保の状況などについて、福井市と十分に協議してまいりたいと考えている。



新型コロナ禍でのセーフティネット

【細】「最も困っている人は、弱って声も上げられない。」私は常々、そう考えています。

例えば学級担任がいじめに気づくとき。いじめは教員の目の届かない所で行われますから、訴えがなくても表情の暗い子には声を掛ける、そして日頃からの教員と話しやすい雰囲気作りが大事。あるいは、災害などで傷病者が多く出た時の「トリアージ」傷病者選別」

息が絶えかけている人は、「助けて」とか「痛い」とか、声すら出せません。だから、しつかり目を凝らし、声の大きい人の影で声なく倒れている人を探します。

世の中も同様だと思います。

新型コロナウィルス感染症の影響で、窮地に立たされている方が多い状況である今、これまで以上に目を凝らし、社会のセーフティネットの確認と強化をすることが求められますが、今、特に気を配っておられる点など、知事の考えを伺います。

【知事】日頃から生活が困難な方々には、コロナ禍の影響が直接的かつすぐに現れてくると感じています。

そこで、失業が生じないように、事業者の資金を潤沢にし、雇用調整助成金を上乘せし、離職者を雇用する事業主を支援するなどしています。また、生活福祉資金を事前にできるだけ手厚くして、迅速にこういった資金を届けられるようにもしています。

その上で、総合相談窓口利用を呼びかけています。

市や町と連携し、社協・民生委員の皆さんの声も聞きながら、必要な施策に力を注ぎます。

総合相談窓口(県庁) ☎0776・20・0250
土日・祝日を除く 午前8時30分～午後5時15分



北陸新幹線 (全員協議会にて)

【開業遅れの説明を行う国交省鉄道局次長に対し】

【細】まずは、「北陸新幹線の建設費負担が、県民一人当たり、いくらになると思っているのよ」……です。

それから加賀トンネルの「盤ぶくれ」によるひび割れだが、3年前にも柿原トンネル(あわら市)で陥没事故を起こしている。明け方の事故だったので、死者はいなかったが、もし昼間の事故だったらと思うとぞつとする。

加賀トンネルも柿原トンネルも、地質と設計施工の問題だ。地質のデータや調査は、適切に設計に活かされていたのか、施工業者は吟味しなかったのか、連携は取れていたのか、柿原トンネル事故の検証結果は、加賀トンネルに活かされなかったのか、疑問だらけだ。



柿原トンネルの陥没事故現場

【国・次長】一定の対策を行い工事に入ったが、起つてしまった。対策工事後。きちんと機能しているか、精密な測定をして監視をしていく。安全性に揺るがされる点があつてはならないという大前提でやっていく。

県営住宅の戸数と入居支援について

【細】県営住宅や市営住宅などの公営住宅は「住宅セーフティネットの中核」です。そして今年は、コロナ禍の影響による解雇などで、「住居確保が困難となった方への一時提供」という役割も加わり、求められる役割が高まっています。

しかし、福井県の県営住宅戸数は2,000戸以下という全国一少ない戸数で、人口割りに換算しても低いです。

現在、空き待ちの方も多い現状ですが、戸数はもちろん、バリアフリー対応、要配慮者の居住支援など、十分その役割を果たせている状況なのでしょうか？

【知事】様々なニーズに対応するためにも、民間の賃貸住宅の活用も必要だと思っています。県の居住支援協議会に、不動産業の方にも入っていただいて、できるだけ貸していただくようお願いしています。

また入居後の支援は、住宅部局と福祉部局の連携が非常に重要と考えています。

土木部長 県営住宅整備は、長寿

命化対策を進めていくとともに、主に1階部分のバリアフリー改修を計画的に進めます。

エレベーターのない4階、5階建ての建物には、今後、計画的なエレベーターの設置を検討してまいります。



健康福祉部長 土木部と一緒に入居

相談マニュアルを作つて、物件探しや保証人の住宅確保の課題の他、介護・就労とか、入居後の生活支援に役立てています。

市町の窓口、場合によっては県庁で御相談をお受けし、委託団体とその窓口が協力して、支援に当たっています。



日本学術会議の会員任命は、「優れた研究業績により、日本学術会議が推薦し、その推薦に基づいて内閣総理大臣が任命する」とされています。

今回任命拒否された6名の中に、私が直接存じ上げている東京大学教授の宇野重規先生がおられます。

宇野先生は日本を代表する政治思想史の学者の一人で、「民主主義のつくり方」など著書も多数。サントリー学芸賞などを受賞しておられます。

お父様は、国際政治学者で島根県立大学の初代学長の宇野重昭氏、お母様は、教育学者でフェリス女学院大学名誉教授の宇野美恵子さんです。

私は「市川房枝記念会女性と政治センター」で、先生の講演を拝聴したのですが、民主主義についてきちんとしたお話、とても腑に落ちるお話をされる方で、お人柄は温厚で、思慮深く、それでいてユーモアもある方とお見受けしています。

福井では、日刊県民福井の「視座」というコラムの執筆者の一人です。また何より、福井の長期ビジョンを策定するにあたり、県がたいへんお世話になった方です。県は、先生を第一人者と評価し、締めめのセミナーをお願いしている……。

そんな方が「任命拒否」されたというのは、驚きで疑問です。宇野先生のような見識ある方を拒否するならば、どういった業績の方が任命されるのでしょうか？

市川房枝記念会の方に伺うと、「素晴らしいから外されたのよ。」と笑い飛ばすように述べられますし、宇野先生もさうと受け流されているような印象です。

でも今回の請願を受け賛否を問われるならば、私は、「理由も言わないような任命拒否は良くない」、「きちんと説明をすべき」と考えます。そこからです。

日本学術会議問題に関する請願 (否決反対討論)